

TOPICS 5 ペガサスグループ ランチョンセミナー

職員の意識統一を図るセミナーを開始。

ペガサスでは、平成28年6月から、昼食を取りながらの講習会<ランチョンセミナー>を始めました。全職員を対象に、ペガサスの取り組む<トータルヘルスケア・サービス(※)>をより深く理解してもらうのが目的です。

毎週火曜日開催のセミナーでは、実際のケースを取り上げ、同じ内容をひと月を通して実施。就労支援がテーマだった6月は、計160名超の職員が参加しました。今後は、参加



者が気軽に質問できるような場にして、リラックスした雰囲気の中、職員が学べるようにしたいと考えています。

※地域の皆さまが安心して暮らせるよう、継続ケアと地域連携を軸に、地域における医療・介護・福祉を結んで展開するサービス。

TOPICS 6 ペガサスグループ 球技大会/6月

平成28年6月26日、ペガサス球技大会を開催。

家原寺体育館にて、ペガサス球技大会が行われました。職員の福利厚生として始まった本大会も今年で4回目。175名の参加者は、バレーボールなどで心地よい汗を流しました。



TOPICS 7 社会福祉法人 風の馬 ペガサス保育園・ペガサス第二保育園

課外学習として体操教室をしています。

ペガサス保育園とペガサス第二保育園では、体育の教員免許を持った先生にお越しいただき、毎週体操教室を開催。跳び箱や逆上がり、メキメキ上達しています。

お問い合わせ/TEL:072-262-3000



ペガサス地域包括 ケアセンター



ペガサス地域ロイフェスを開催
平成28年7月30日、ペガサスロイヤルリゾートにて、夏祭り<ペガサス地域ロイフェス>を開催しました。今回は、作品展とともに、初めてのバサーも開催。恒例の屋台や盆踊りに加え、新たな催しが増えたことで、大賑わいの夏祭りとなりました。

私たちと一緒に働きましょう。

随時受付
しています

介護職員募集中! 正職員採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

障がい者の方、一緒に働きませんか

※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃 D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ/馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089

社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus>

ペガサスグループ 株式会社ユニコ

夏場の脱水予防に水分補給ゼリーやOS-1も販売配達しております。

お問い合わせ/TEL:0120-062-505

堺市
紙おむつ
給付券
OK!



9月 ペガサスセミナー

ストレスと上手に 向き合うコツ(方法)を お教えします

講師: 馬場記念病院
臨床心理士 梨谷竜也
日時: 9月29日(木)午後2時~3時
場所: 馬場記念病院 1階ロビー

9月 ペルセウス介護 支援セミナー

外出してリフレッシュ しましょう! ~通所サービスの活用について~

講師: 今西崇(介護福祉士)
日時: 9月21日(水)午後2時30分~
場所: 介護療養型老人保健施設
ペルセウス 3階食堂

9月 ペガサスセミナー 和泉

骨粗しょう症について

講師: 介護療養型老人保健施設
エクウス施設長
馬場満記念クリニック院長
医師 新田敦範
日時: 9月29日(木)午後2時~3時
場所: 介護療養型老人保健施設エクウス

10月 ロイヤルリゾート 健康相談会

10月開催プログラム

内容: 認知症の予防法
ペガサス予防体操
大正琴
日時: 10月12日(水)午後1時30分~
場所: ペガサスロイヤルリゾート

PEGASUS NEWS



ペガサスニュース

発行人/馬場武彦
発行/社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
<http://www.pegasus.or.jp/>
編集/ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力/HIPコーポレーション
発行/平成28年9月14日

Vol. 72

ペガサスから地域の皆さまへ

不安、心配、悩みごと…。地域包括ケアセンターの〈なんでも相談窓口〉でお聞かせください。

健康のことから在宅介護まで。 多様なニーズに対応します。

ペガサスでは、平成27年11月より、馬場記念病院1階の総合案内横になんでも相談窓口>を開設しています。この窓口は、もともと介護相談を行っていた窓口を、さらに多くの患者さまやご家族にご利用いただけるよう、地域包括ケアセンターとしてリニューアルしたものです。相談時間は平日の9時30分~12時で、医療、健康、介護、リハビリテーション、保険など、多岐にわたる分野について、何でもご相談いただけます。対応するのは、看護師長の北口佐登美



なんでも相談窓口

と看護師の服部恵。内容に応じて、その場で棟棟看護師やケアマネジャー、理学療法士、MSWなどの専門職に繋ぎ、ご相談者さまの抱える問題を迅速に解決へと導きます。

窓口は、昨年の設置以来、多くの方にご利用いただき、6月には約140件のご相談がありました。但し、なかには、直接的な相談だけでなく、ご相談者さまとの会話を通して、隠れていた問題が発覚するケースもあります。そのため窓口では、ロビーの様子を注意深く見定め、困っている方、逡巡している方へも積極的にお声がけをし、患者さまやご家族が抱えている問題を決して見逃さないよう努めています。

今後は、そうした積極的な姿勢をさらに進め、たとえば、外来通院をしている患者さまの様子や変化にも目を配り、もし必要であれば、訪問看護などに繋ぐことで、入院を防ぐような役割も果たしていきたいと考えています。そして将来は、地域の皆さまが、〈なんでも相談窓口〉を目的に来院するようなく地域の窓口>になりたいと考えています。

お問い合わせ/TEL:072-265-5558 (担当 平岩)

6月13日~17日、当院職員が<北米視察ツアー>に参加しました。

社会医療法人ペガサスでは、理学療法士と作業療法士が、社会医療研究所所長の岡田玲一郎先生が主催する<北米視察ツアー>に参加しました。

5日間に亘るツアーでは、オハイオ州クリーブ

ランド市の急性期病院、リハビリテーション病院、老人保健施設、障がい者向けの自立支援施設、医科薬科大学など計9施設を訪問。リハビリテーションの様子や工夫されたプログラム、そして、広く機能的な設備やロボットを使った最新システムなどを見学しました。また、訪問先では、薬局の未来やオ



エリリア医療センター

バマケアに対する取り組みなど、さまざまな講義も聴講し、米国の最新医療事情の一端に触れました。

社会医療法人ペガサスでは、彼らの貴重な経験をフィードバックし、医療の質とサービス向上に役立てていきたいと考えています。



講義の様子

病気を知ろう | 大腸がん

シリーズ no.3

早期発見、早期治療で完全治癒も可能です。



監修
外科部長
寺岡 均

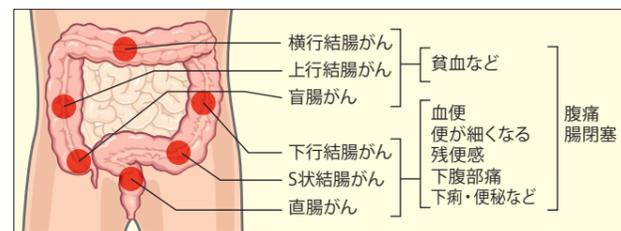
大腸がんという病気。

大腸がんは、大腸の粘膜より発生したがん(悪性腫瘍)で、発生部位により、盲腸がん、結腸がん、直腸がんに分かれます。

日本では、女性のがんの死亡率1位、男性でも3位を占め(2014年)、男女ともに増加傾向にあります。大腸がんにかかる割合は40代から増加、50代以降で加速し、高齢になるほど高くなります。そのため、日本対がん協会では、40歳以降の定期的な検診を推奨しています。

大腸がんの原因と症状。

大腸がんは、生活習慣では肥満、



大腸がんの種類と症状

飲酒、喫煙が、食生活では赤肉(牛・豚・羊)や加工肉(ハム、ソーセージなど)を多く摂取することがリスクを上げるといわれています。

一般的に、早期の大腸がんには自覚症状がありませんが、症状としては、肛門に近い部位にできたがんの場合、血便や便が細くなる、残便感、下腹部痛、下痢と便秘の繰り返しなどがみられます。但し、肛門から離れた結腸にできたがんには、自覚症状が少なく、貧血や健康診断で発見されるケースが多い傾向にあります。

大腸がんの診断と治療。

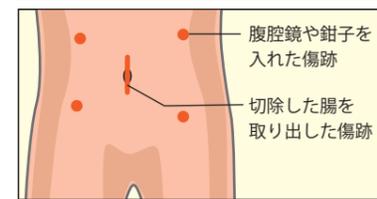
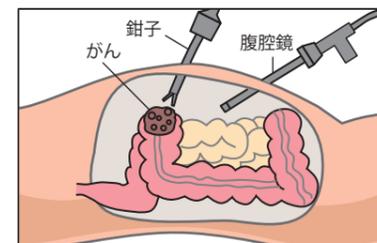
大腸がんは早期に発見して治療を行えば、完治が可能ながんです。

そのため、定期的な検診が重要になります。診断は、大腸内視鏡検査やバリウム

注腸検査で大腸病変を確認し、血液検査および病理検査にて行います。また、他の部位に転移をしていないかを、レントゲン検査、超音波検査、CT検査、MRI検査などで調べます。

治療には、内視鏡治療、外科治療、化学療法、放射線治療の4つがあり、がんの発生部位や進行度によって使い分けたり、それぞれを組み合わせた集学的治療が行われます。

当院は、外科治療において、開腹手術と比べて傷口が小さく、回復の早い腹腔鏡手術を積極的に実施。良好な成績を取っています。また、消化器内科、放射線科、臨床病理部と密に連携し、集学的治療(手術や薬物療法などを組み合わせた治療)にも取り組んでいます。



腹腔鏡手術のイメージと手術後の傷跡の位置

エキスパート | 心臓リハビリテーション指導士

シリーズ no.3

包括的なリハビリテーションを提供。

心臓リハビリテーションで、健康寿命を延ばします

心臓リハビリテーション指導士とは、運動療法だけでなく、食事療法や生活指導などの包括的なリハビリテーションが必要なく心臓リハビリテーションのスペシャリスト。早期離床・退院と再発予防を目的に、多職種と連携し、心疾患の患者さまの心身を改善へと導きます。資格は、日本心臓

リハビリテーション学会が認定し、医師、看護師、理学療法士などの有資格者のうち、実地経験などの要件を満たした試験合格者に授与。現在、ペガサスには3名が在籍しています。

「認知度の低い心臓リハビリテーションを、当院が積極的に実施することで、より多くの方に知ってもらい、再発予防、再入院予防に繋がりたいです」。

(渡邊允雄 理学療法士)

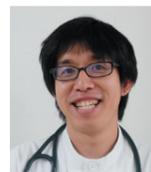


「ある先生の『理学療法士は、もっ

と予防の分野に目を向けるべき』という言葉で、興味を持ちました。目標は、心臓リハビリテーションを広めることです」。

「資格をとって終わりではなく、知識をさらに深めて、患者さまにより良いリハビリテーションを提供できるよう日々努力していきます」。

(松村友明 理学療法士)



TOPICS 1 ペガサス訪問看護ステーション 訪問看護教育ステーション事業

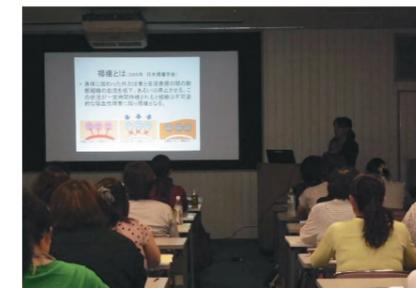
大阪府の委託事業を通じて、地域の訪問看護教育に貢献。

ペガサス訪問看護ステーションは、平成28年度 訪問看護実践研修事業の<堺ブロック教育ステーション>を担当することになりました。これは、大阪府から委託を受けた訪問看護ステーションが、訪問看護師への研修会や同行訪問、訪問看護ステーションへの指導や助言などを行い、地域の訪問看護師の育成・確保・定着を図るものです。

当ステーションでは、まず6月にグリーンケア(身近な人との死別で悲嘆に暮れる人の支援)の研修会を実施、93名にご参加いただきました。終了後には、「自分たちの看護に活かせると思った」という感想も寄せられるなど評判も上々でした。続く7月に行った、褥瘡ケアの研修会では、定員を超える77名が参加。「知りたいけれど学ぶ機会がない」という方に



応えるものとなりました。今後、当ステーションでは、研修会とともに、体験実習や、訪問看護師・訪問看護ステーションのための



電話・FAX相談も行う予定。本事業を通じて、地域の訪問看護の質の向上をめざします。

TOPICS 3 ペガサスリハビリテーション病院 大阪府と看護協会による勤務環境改善事業

モデル事業に参加し、職場環境の改善を推進。

ペガサスリハビリテーション病院は、平成28年度実施の<医療勤務環境改善支援センターと連携したWLB(ワークライフバランス)推進モデル事業>の参加施設に選ばれました。この事業は、大阪府看護協会と大阪府医療勤務環境改善支援センターが連携し、参加施設に対して、職員の働き方、職場環境などの相談や支援体制の構築を図るもの。さらに、問題点や対策などの分析も行う予定です。

当院はこの事業を通じて、医療職全般の勤務環境改善に取り組み、職員が働きやすい職場を実現。患者さまの安心安全に繋がっていきます。

平成29年4月、ペガサスリハビリテーション病院は、病院機能評価を受審します。

TOPICS 2 法人関係 パートナー事業所との連携交流会

パートナー事業所とさらなる連携を図ります。

平成28年6月30日、ペガサスでは、パートナー事業所との連携交流会を開催しました。これは、ペガサスが平成15年に創設した<パートナー事業所制度>をさらに活性化させるものです。この会を通じ、273のパートナー事業所(平成28年7月時点)との連携強化に取り組みます。

当日は、66名の方にご参加いただき、講演や意見交換会、職員紹介などが行われました。参加者からは、「事業所同士の交流にもなる」とのお声もいただくなど、大変有意義な会となりました。

ペガサスでは今後も、交流会を定期的に開催し、パートナー事業所と顔の見える関係を構築することで、患者さまへのより良い継続ケアに繋がっていきます。



TOPICS 4 馬場記念病院 ペガサス連携講演会

かかりつけ医のための講演会を馬場記念病院にて行いました。

平成28年6月23日、ペガサス連携講演会<かかりつけ医のための心原性脳塞栓症治療アプローチ>が馬場記念病院にて開催されました。

講演は2部構成で、1部では、循環器科部長の山下 啓医師が座長を務め、同科副部長の高坂道彦医師が、心原性脳塞栓症(※)を引き起こす心房細動の最新治療について講演。2部では、脳神経外科部長の魏 秀復医師が座長を務め、心原性脳塞栓症の治療と予防における地域連携の重要性について外部講師が講演しました。

馬場記念病院では、こうした講演会を通じ、地域の医療関係者に最新の医療情報を発信。かかりつけ医の先生とともに、地域の皆さまの健康を守っていきます。

※心臓にできた血栓が剥がれて脳の太い動脈に詰まる病気のこと。

